

1 単元 「自然の中で季節を感じ、感動したことをもとに俳句を創作しよう」

2 指導観

- 「twitter」の文字数は140、「Yahoo!ニュース」の見出しは14.5が上限である。情報機器の急速な普及と発達により今や情報が溢れんばかりの世の中は、文字の短縮や制限による工夫で整理されている。よって、情報を短文に集約して、表現豊かに他者に伝える力が不可欠である。

本単元は、「俳句の創作」を基として選んだ季題について魅力的な俳句を作成し、練り上げた俳句を交流する活動を通して、情報の精選や本質を捉え、俳句の深い内容理解ができるようになることをねらいとしている。学習内容としては、詩因の在り方、季語の必要性、切れ字の在り方、季節の特徴、歳時記の分類の特徴、構成の検討の仕方、技法の特徴、組み合わせの在り方、一作一中心の視点、省略の在り方、鑑賞の在り方などがある。このような学習内容から、生徒は俳句を創作する視点を捉え、深い読み手となることができる。また、俳句を創作するという目的によって深い内容理解が必要条件であることを意識し、思いや感動を発信するための態度の変容を促すことができる。したがって、本単元を学習することは、俳句を創作するという課題が前提としてあるなかで、学習の目的を実感しつつ、その中で俳句の創作の質を高めるための情報の精選や、生徒が言葉の意味の深さを味わう重要性を実感できる点において、大変意義深いと考える。

○

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本単元の指導にあたっては、「学級で句会を開催することになりました。そこで、『自然の中で季節を感じ感動したこと』を基に自身の視点から級友に感動が伝わるような一句を創作しなさい。」という学習課題を設定し、俳句の情景や感動の中心、技法を捉えて文章を練り上げ、級友の目を引くような俳句の作成を仕組んでいく。そのためにまず、学習課題を示し、俳句の創作を行う上での約束ごとについて捉えさせる。ここでは、詩因となるものを連想しやすくさせるために、未完成の俳句に言葉を入れさせ、意見交流する場を設け、自分の考えと比較させる。次に、俳句の創作に取り組ませる。ここでは、季節の変化を肌で感じ、捉えて詩因を決めさせるために、吟行して発見したものを写真に撮らせて記録するよう促す。また、俳句を創作する際に、組み合わせの美しさを理解させるために、色の対比や言葉の組み合わせを提示する。さらに、グループで推敲・添削して俳句を書き上げさせる。ここでは、創作句の中心が明確かを確認させるために、改めて作品が一作一中心になっているかを問う。また、デジタル版の単元学習シートの記録を見返すよう促し、改善箇所があれば更新させる。最後に、句会の場を設定し、級友との交流を通して自己の活動を振り返らせる。ここでは、考えを個に返すために、振り返りシートを用いる。

3 目標

- 人物の歴史的背景などに注意して作品を読むことを通して、その世界に親しむことができる。
- 文章の種類を選択し、自身の思いや感動を伝えるために書き表す言葉を厳選し、構成を工夫することができる。
- 学習課題の達成のために見通しをもち、季節の移り変わりから感動の中心を捉え俳句に込めて、その魅力を表現しようとしている。

4 計 画 (9時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	手だて (○) 研究に関する手だて (◎)	評価規準
一	1 本 時	1 芭蕉の俳句から言葉の吟味大切さを実感する。 ・俳句の本質の在り方 学習課題 学級で句会を開催することになりました。そこで、「自然の中で季節を感じ感動したこと」をもとに自身の視点から級友に感動が伝わるような一句を創作しなさい。	◎ 言葉の吟味の仕方についてさらに考えを深めさせるために、俳句の推敲を基に、意見交流する場を設け、考えを比較するよう促す。 【C6】	態：他者との交流を通して多様な考え方に触れ、俳句の創作に向けて本質となる要素を捉えようとしている。
二	5	2 俳句の創作に取り組む。 (1) 季語の必要性や切れ字の在り方を捉える。 ・季語の必要性 ・切れ字の在り方 (2) 吟行し、俳句の創作で取り扱う詩因を決める。 ・季節の捉え (3) 詩因を振り返り、季題を設定する。 ・歳時記の分類 ・構成の検討の仕方 (4) 創作句の表現に最適な技法を検討する。 ・技法の検討 (5) 俳句を創作する。 ・組み合わせの在り方	○ 季語や切れ字の在り方を捉えさせるために、モデル文を読ませ、その必要性を問う。 ◎ 季節の変化を肌で感じ、捉えて詩因を決めさせるために、吟行して発見したものを写真に撮って記録するよう促す。 【B2】 ○ 自然の中から発見した詩因をもとに、季題を設定させるために、歳時記のめぐり方や構成の検討の仕方を全体で確認する。 ◎ 創作句の表現に最適な技法を検討させるために、クラウド上で意見交流の場を設け、必要に応じて他班の意見と比較するよう促す。 【C6】 ○ 俳句を創作する際に、組み合わせの美しさを理解させるために、色の対比や言葉の組み合わせを提示する。	知：季語、切れ字の役割と必要性について説明することができる。 思：伝えたい情景や心情を自分の経験を踏まえて、具体的に言葉で表現することができる。 知：具体的な例を示し、俳句の表現の技法について説明することができる。 思：俳句を創作するときの一つ一つの言葉を吟味しながら言葉を選択することができる。
三	2	3 グループで推敲・添削して俳句を書き上げる。 (1) 俳句の推敲・添削の在り方を知り、推敲する。 ・一作一中心 ・省略の働き (2) 級友のアドバイスを生かして、俳句を仕上げる。 ・表現の検討	○ 創作句の中心が明確かを確認させるために、芭蕉の句をスライドで提示し、改めて作品の中心を問う。 【A1】 ◎ 学習してきたことを踏まえて創作句を仕上げさせるために、デジタル版の単元学習シートの記録を見返すよう促し、改善箇所があれば更新するよう促す。 【B6】	思：創作句を、決まりや条件に合わせて再検討することができる。
四	1	4 句会を開催し、俳句作品を評価する。 ・鑑賞の在り方	○ 創作句を鑑賞する意義について理解させるために、鑑賞の在り方について例を示し、高得点の句だけが評価されるような場にならないように助言する。	態：明確にした俳句の鑑賞の在り方を活かして、作品を評価しようとしている。

5 本時 令和3年10月29日(金) 第1校時 計画 第一次 3年2組教室にて

(1) 主眼

○ 俳句の推敲を基に、他者と意見交流する活動を通して、多様な考えに触れ、ものの見方や考え方の視野を広げ、創作に必要な本質を捉えることができる。

(2) 準備

①単焦点プロジェクター ②デジタル版単元学習シート ③意見交流シート ④質問シート

(3) 過程

学習活動・内容	準備	手だて(○)と研究に関わる手だて(◎)評価(◇)	形態	配時
<p>1 本時の学習単元を捉える。 ・情景の捉え</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて よりよい俳句づくりに必要な要素は何かを捉えよう。</p> </div>	<p>① ②</p>	<p>◎ 学習単元を捉え、前の単元との学習のつながりを実感させるために、端末により写真を提示し、「風景はどこなのか、人物は誰なのか」を問い、つながりについて言及する。 【A1】</p>	<p>一斉</p>	<p>10</p>
<p>2 芭蕉の句から推敲に必要な視点を獲得する。 ・言葉の吟味の視点 ・解釈の広がり</p>		<p>◎ 芭蕉の句から言葉の吟味の大切さを実感させるために、スクリーンに「閑さや～」の推敲段階からの句を提示し、「一句目と二句目の言葉を芭蕉はなぜ変えたのか」と問う。 【A1】</p>	<p>一斉</p>	<p>10</p>
<p>3 俳句の推敲を通して、意見交流をする。 ・推敲の在り方</p>	<p>③</p>	<p>◎ 言葉の吟味の仕方についてさらに考えを深めさせるために、小グループで意見交流シート上において意見交流させ端末で集約したものを学級全体に提示し発表するよう促す。 【C6】</p>	<p>一斉 ↓ 小グループ</p>	<p>20</p>
<p>4 意見交流を通して、創作に必要な要素を捉える。 ・俳句の本質の在り方</p>	<p>④</p>	<p>○ 俳句の創作のために必要な本質を捉えさせるために、創作に必要な要素を問う。 ◎ 自分の考えを整理して投稿し、他者の意見を見て、考えをより深めさせるために、「どのようにすればよりよい俳句を創作することができるか」と問い、デジタル版の質問シートで集約し、全体で共有するよう促す。 【C2】</p>	<p>一斉 ↓ 個</p>	<p>10</p>
<p>学習課題 学級で句会を開催することになりました。そこで、「自然の中で季節を感じ感動したこと」をもとに自身の視点から級友に感動が伝わるような一句を創作しなさい。</p>		<p>◎ 単元計画の学習課題を達成させるために、デジタル版の単元学習シートに振り返りを書かせ、記録として残すよう指示する。 【B6】 ◇ 他者と意見交流する活動を通して、創作に必要な本質を捉えることができたか。 (デジタル版単元学習シート)</p>		

